

三里松原再生計画策定に係る専門部会（第4回）

日時：平成21年10月30日（金）午後1時30分から
 場所：岡垣町役場 本館3階 大会議室
 内容：以下のとおり

松原再生計画テーマの設定について

三里松原の現状調査や専門部会での意見・要望、住民アンケート調査などをもとに、今後どのような方針で、どのような活動が必要なのかを一覧表としてまとめ意見を頂きました。

三里松原の基本方針

基本方針拡大版

三里松原再生の基本方針		現状及び要望・意見		今後	
再生テーマ	現状	要望・意見	方針	メニュー	
1 防風保安林機能の向上	森林管理による維持管理 三里松原防風保安林保全対策協議会による活動（マツの植林、松葉かき、雑木等の除伐） 潮害や飛砂の被害がある【関係区長説明会】 潮害や飛砂の被害を受けたことがない住民が多い【住民アンケート】	「防風・防湿や水源かん養機能を重視」することを望む住民が約6割【住民アンケート】 維持管理不足によりマツの生育が悪い【専門部会】 西側はマツでなくてもよいが防風林機能を高めてほしい【専門部会】 マツでなければ防風・防湿機能が果たせないので広葉樹を伐ってでもマツにしたい【専門部会】	防風保安林機能の維持・向上	適切な維持管理 ・マツの植林や間伐 ・松葉かき ・広葉樹の除伐 ・低木類の伐採持ち出し ・松枯れ防止策 自然の遷移に委ねる	
2 マツ林の維持及び広葉樹林（マツ・広葉樹混交林も含む）のマツ林への転換	森林管理による維持管理 三里松原防風保安林保全対策協議会による活動 クロマツ林（幼齢林、壮齢林、老齢林）が約7割【植生調査】 マツ・広葉樹混交林は適切な維持管理を行わなければ、広葉樹林化【植生調査】	維持管理不足によりマツの生育が悪い【専門部会】 適切な手入れを行い、松林として維持することを望む住民が約6割【住民アンケート】	マツ林の維持と創出及び景観の向上	海岸近傍・低標高マツ林の維持 ・松葉かき ・低木類の伐採持ち出し ・松枯れ防止策 マツ・広葉樹混交林のマツ林化 ・マツの植林や間伐 ・松葉かき ・広葉樹の除伐 ・低木類の伐採持ち出し ・松枯れ防止策 目にふれる場所（例：国道495号沿い）の広葉樹林のマツ林化 ・広葉樹林の皆伐 ・マツの植林 ・萌芽再生木の伐採 ・松枯れ防止策	
3 多様な主体の協働による保全活動の推進	森林管理による維持管理 三里松原防風保安林保全対策協議会による活動（マツの植林、松葉かき、雑木等の除伐） 参加意向は高い【住民アンケート】 町民による海岸清掃（ラプアース・クリーンアップ運動） 活動の認知度は高く、参加経験者も多い【住民アンケート】 小中学校児童・生徒による三里松原清掃活動（クリーンアップ・サンリー海岸）	活動のPR、参加しやすい日時の考慮【住民アンケート】	コミュニティ、住民、民間団体、行政の協働による活動	森林管理による維持管理 ・マツの植林 ・松葉かき ・雑木等の除伐 ・松枯れ防止策 三里松原防風保安林保全対策協議会による活動 ・マツの植林 ・松葉かき ・雑木等の除伐 海岸清掃 ・ラプアース・クリーンアップ運動 ・クリーンアップ・サンリー海岸	
4 三里松原の有効活用（健康増進・環境教育）の推進	サイクリング 海岸利用 松林内の散策等 いずれも個人的利用がほとんど【住民アンケート】	案内板・説明版の整備 安心して散策できる道の整備 東屋、トイレ、ベンチなど簡易に休める施設の整備 総合公園化（遊歩道、ジョギング、サイクリングコース、自然学習の場）【住民アンケート】 利用者のマナー・モラルの向上（ごみの問題、安全性の問題等）【住民アンケート】	三里松原を安心して健康増進や環境学習に利用するための整備 監視体制の強化とマナー・モラル向上のための啓発	三里松原の案内板・説明版の整備 安心して散策できる道の整備 簡易休憩施設の整備 広葉樹の樹種誘導（自然観察や環境教育を目的として） 国有林のグリーンパトロール事業の活用 不法投棄、ポイ捨て警告看板の設置	
5 三里松原情報の普及啓発の推進	観光ガイドマップによる情報提供 岡垣町公式ホームページでの紹介 広報おかがでの紹介	三里松原のPRが不足している【住民アンケート】	三里松原を身近なものとして感じられるような普及・啓発	現在のPR方法の充実 ・観光ガイドマップによる情報提供 ・岡垣町公式ホームページでの紹介 ・広報おかがでの紹介 自然観察・環境学習の場としての活用 （メニュー例）植生の遷移、マツ林、広葉樹林、水源地 新たなPR方法の検討 ・（例）三里松原グッズ・特産品の開発	

松原再生のためのゾーニングについて

現存植生図と20～30年後の植生図

上段の図は、現在の三里松原の植生図（植物群落の分布を地図上に示したもの。）であり、下段の図がこのまま何も手を加えず放置した場合の20～30年後の植生図です。

図から見てとれるように、20～30年後の植生図では、三里松原東側で特にピンク色（マツ・広葉樹混交林）が目立っています。これまでクロマツ林であった場所が、マツと広葉樹混交林へ樹種転換することが分かります。これは、適正なマツの管理（松葉かき）がなされないため、土壌が肥沃化し下層に広葉樹が生育するものから生じるものです。

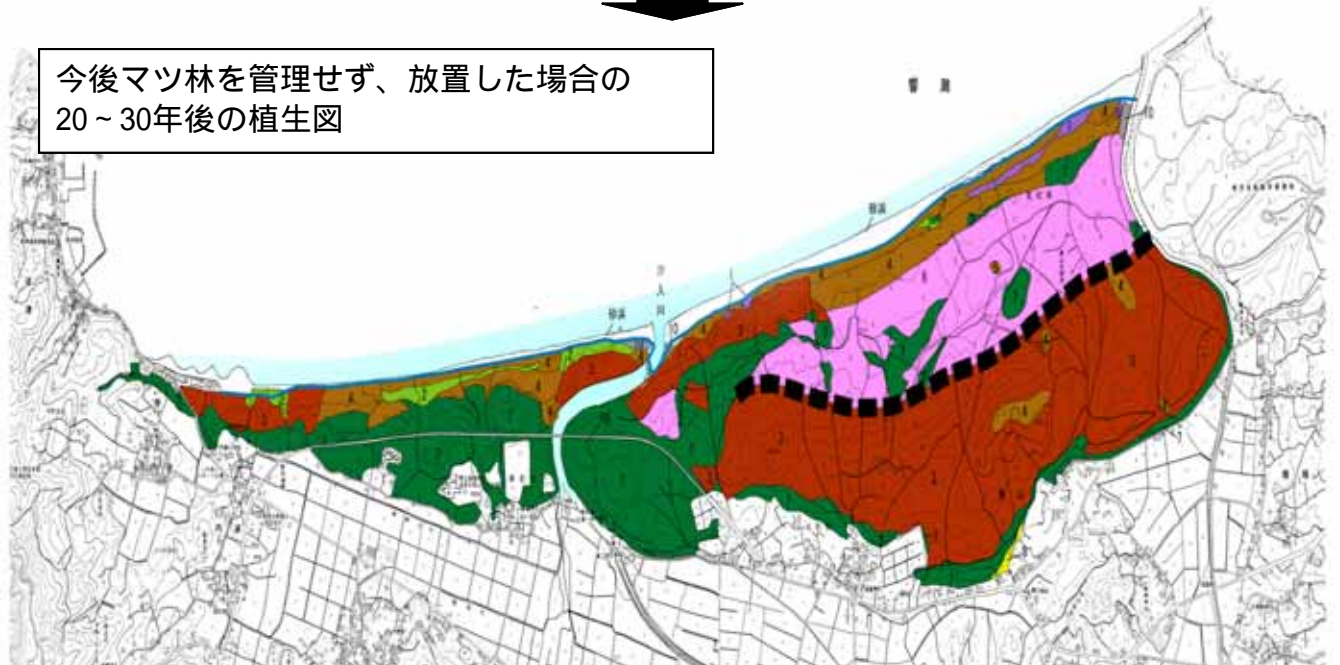
また、上段の図でピンク色（マツ・広葉樹混交林）であった場所は、緑色（常緑広葉樹）へ転換することが分かります。マツの下層には広葉樹が繁茂しており、高木のマツが枯れたことによるものです。

このように、今後、マツ林を管理せず放置することは、クロマツ林の衰退に繋がり、何十年、年百年先には三里松原の大部分が常緑広葉樹となることが予測されます。クロマツ林を取り戻すことは、非常に年月がかかることから常日頃の適切な管理が重要となります。

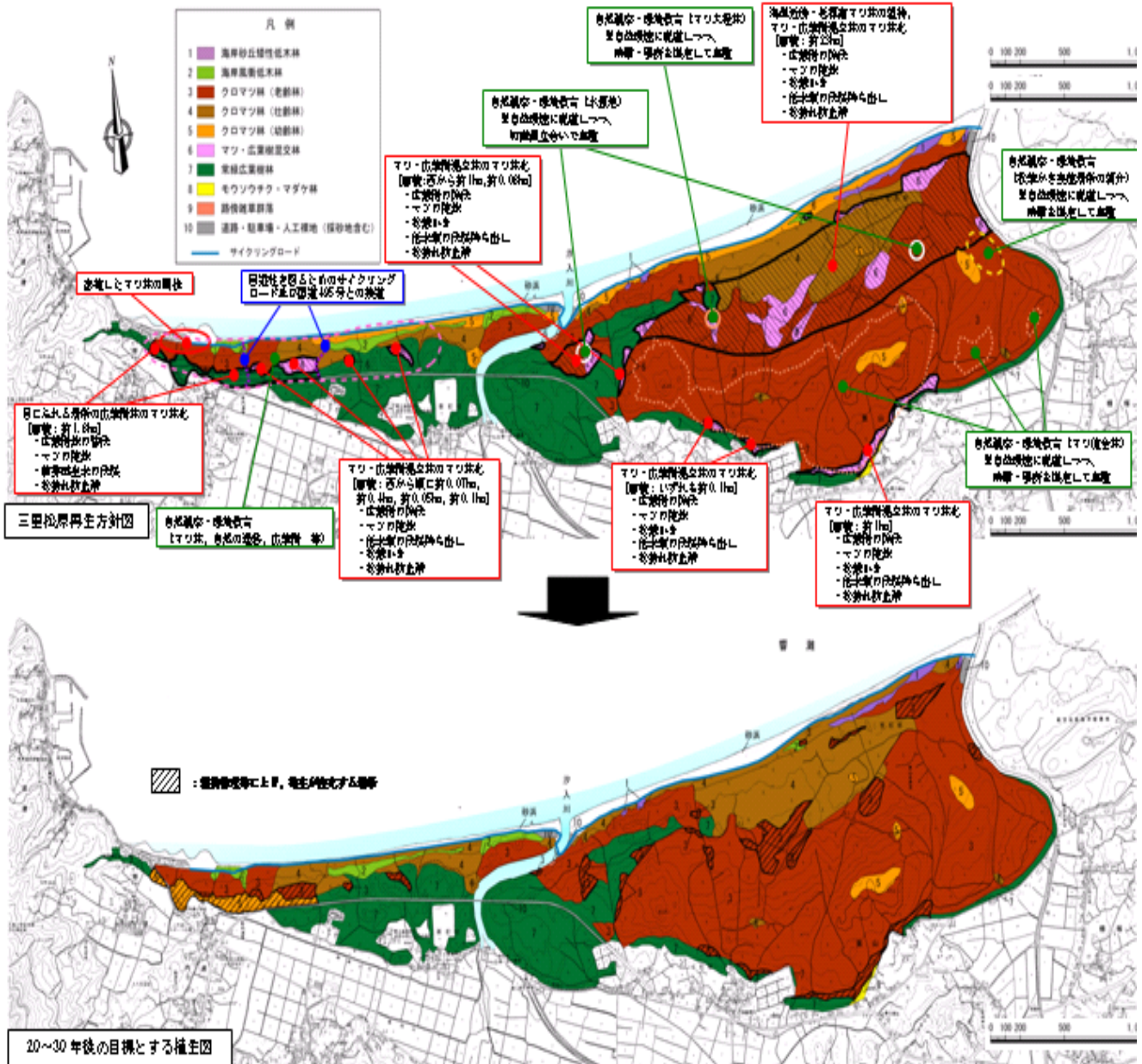
現存植生図



今後マツ林を管理せず、放置した場合の
20～30年後の植生図



上段の図は、三里松原の基本方針をもとに、それぞれの地域をどのような場所にし、どのような活動を展開するのかを図に記入したものです。そして、下段の図は、三里松原の基本方針に従いながら活動を推進し、20～30年後目標とする植生図となっています。



三里松原の東側（概ね汐入川～矢矧川間）【事務局（案）】

三里松原の東側では20～30年後マツ林からマツ林・広葉樹混交林へ遷移し、マツ林の衰退が懸念されます。（図の網掛部分）したがって、特にマツ林の衰退（網掛部分）が予想される場所を中心とした、維持管理を行うことを基本とし保全に努めます。（保全ゾーン）

なお、火災、盗掘などに配慮し、むやみに人を入らせないような工夫が必要となります。

ただし、東側部分には、三里松原を良好な状態で次世代に引き継ぐためのすばらしい場所が多く存在します。（水源地、マツの大径木、松葉かき実施地など。）よって、入林時期や入林場所を限定し、必要最小限の範囲で自然観察・環境教育に使用したいと考えます。

三里松原の西側（概ね波津海水浴場～汐入川間）【事務局（案）】

西側部分には、レジャー施設としての波津海水浴場、味覚や安らぎを提供する旅館群、海岸線を楽しむための貸し自転車事業など岡垣町の素晴らしい景観や観光施設等が存在し、様々な活用が期待できる場所です。

まず、汐入川から西側の図面上ピンク色になっている部分（マツ・広葉樹の混交林）については、マツ保育のための広葉樹の除伐を行い、マツ林を維持していきます。

遠賀・宗像自転車道については、現在の管理道を利用したなかで、松原林内を散策・自然観察できるよう整備します。範囲としては、ぶどうの樹から波津海水浴場までを予定しており、国道495号線付近と接道することで回遊性を高めます。

また、国道495号線のぶどうの樹から波津海水浴場まで広葉樹が繁茂している場所をマツ林に転換したいと考えています。これは、岡垣町のシンボルである三里松原を町内外に知らせることとあわせて、人通りの多い国道沿いに、人の目に触れる場所を創出することで、景観上は勿論のこと、すばらしい三里松原を常日頃から目にすることで、松原の保全意識の高揚や三里松原がわれわれの生活に重要な役割を担っていることを多くの住民の皆様に肌で感じてもらうためです。

さらに、内浦小学校の背後（海側）は広葉樹化しています。この場所は、環境教育として利用し、子どもたち自らが自らの手で体験林業を通じてマツ林の創出に向けた取組を実施してもらいます。

その他、波津海水浴場駐車場の裏側には、マツが密植し、マツの生育や保安林機能にも影響をもたらしています。健全なマツ林の生育に向けた保全活動が重要となります。

専門部会員の主な意見等

Q 目に触れる場所をマツ林に樹種転換を行うこととしているが、東側の国道495号線沿いの近くに住んでいる家の近くに生育している広葉樹のことを指すのですか？

A 樹種転換は東側ではなく西側を想定しています。

Q 有効活用という観点から、トイレ・東屋・ベンチが記入されていますが、メンテナンス、維持補修、維持管理上トイレは廃止した方が良くかんがえますが？

A 住民アンケートによると、トイレ・東屋・ベンチなど簡易に休憩できる施設整備が要望としてあがっています。しかしながら、今後の方針としては、トイレ以外の簡易休憩施設は想定していますが、トイレの設置は考えていません。

Q 最近、西側で特に松枯れが目立ちます。マツ林化した場合、マツが一気に枯れた場合の保安林機能が非常に心配です。また、現在薬剤散布などが実施されていますが、何か良い松枯れ防止策はないのでしょうか？

A 松枯れは、岡垣町に限らず年々増えています。三里松原では、H19に456本、H20に1,030本、H21に1,636本の松枯れが確認されています。松枯れの要因が気候的なものなのか、薬剤散布の手法が年々変わっていることが問題なのか原因は特定されていません。松枯れ防止策に対しては、松枯れに強いマツの品種改良など現在研究は進められています。

Q 今回の計画を策定し、実際に活動を行う際に、施行管理している福岡森林管理署は、この活動に対し問題はないのでしょうか？

A 間伐は法令上実施できません。また、保安林上禁伐となっています。三里松原をどのような名目で皆伐を実施するのか今後の課題となります。

保育行為のための除伐は法令上認められています。また、三里松原は海岸から100mは禁伐区域、それより内陸側は択伐区域となっています。

Q サイクリング道を林内へ通すことについては可能なのでしょうか？

A 土地の利活用については、今後関係機関との協議が必要となります。海岸線の自転車道は、土地を払い下げて保安林の解除をおこなっています。そもそもそこに道をつくることができるのか。あるいは、現在の管理道を使用して利用できるかなど福岡森林管理所内で協議が必要となります。

Q 三里松原東側の西黒山付近の国有林と民有林の境界部分については、マツ林と広葉樹混交林であるが、今後も維持管理をせず広葉樹林化を希望します。マツ林に戻すことは、砂地が雨などで民家に流出するなど生活に支障を来たすおそれがあるからです。

A 指示される場所については、現状のままで手を加えないよう修正いたします。

Q 西側部分の広葉樹の除伐は如何とおもいますが、今年のようにマツが枯れれば保安林機能が維持されません。広葉樹はいくらかでも残すべきであると考えます。

A 全てをマツにしなくても良いと考えます。国道沿いや県道沿いから見える範囲内でも良いと考えています。

Q 三里松原西側海水浴場付近のマツが枯れていいいます。これは、以前地元の方が植林した場所であります。マツの方が良いが、広葉樹を伐採すると潮風などの問題が生じます。ただし、潮風にはマツに適うものはないことも知っています。国道495号線から2~3mには炊けなどが生えています。竹を伐採し、マツを植えたらどうかと思います。こうすることで三里松原のイメージも保たれるのではないのでしょうか？

A 竹は、樹林の育成を阻害する要因であり、これらを伐採することに何ら支障となる問題はないと考えます。

Q 個人的にはマツが良いのですが、今年のような松枯れが生じた場合に、防風・防潮の機能がなくなる。次世代もそうですが、今が重要です。今日、広葉樹が防風・防潮の機能を果たしています。皆伐は問題です。

町の宝である三里松原をこれ以上衰退させたいために、三里松原を多くの町民の方に知ってもらう意味でも、マツの見える化は必要です。様々な法規制はありますが、防風・防潮の機能を阻害しない範囲内で実施したいと考えます。

A また、この豊かな自然環境(三里松原や海岸線、豊かな水)をどのように良好な状態で後世につないでいくのかを町として考えていかなければなりません。あわせて、町としては、白砂青松を原点として、出来るだけマツを増やし、防風保安林機能を高め、町のシンボルとしての保全を考えていかなければなりません。

Q 学校、地域等との連携により、マツを育てたり、植えたり環境教育に使えないのでしょうか？また、マツを種から育てることは難しいのでしょうか？

A 庄内海岸林では、学習林活動として、児童・生徒による下草刈り、補植などを実施しています。

Q 審議する内容は多くありますが、今後の保全・活用(樹種転換・植生誘導)に向けた当面の具体的なスケジュールについても明確にした方がよいと考えます。

A 今後検討し、作業計画・作業手順を作成し、計画に反映させていただきます。

opinion 広葉樹が防潮林として機能をできる前提は、潮風の影響具合や汀線からの距離によります。マツがあるから広葉樹も生育しており、前線部のマツが枯れれば、内陸部の広葉樹も枯れます。基本的な認識として、潮風の当たる部分には、唯一マツが育成する機能がある種です。そこでゾーニングしたときに、ここはマツの方が良いとか、潮風が緩和されれば広葉樹でも良い場所である。そのような観点から議論すべきであると考えます。なお、ここに記載されたものは、直ちに数十年後ガラッと変わるものではなく、長いところでは50年くらいのスパンが出て来るものと考えます。ただし、目に見えるところを数年で実施することで、より目標が明確になると思います。これらスケジュールとあわせて活動内容をみる必要があります。

opinion マツが見えることは非常に重要であると考えます。間伐ができるできないは別の問題として、前に進むためには目標像が必要です。自らの活動や、自らの目標としている姿を見せることが重要であると考えます。